

- 自ら学ぶ生徒
- 自他を思いやる生徒
- 健康でたくましい生徒



「活躍をたたえる会」で3年生を送る

3月2日(水)、5、6校時に「活躍をたたえる会」を実施しました。

これは、昨年度までの「3年生を送る会」を趣向を変えて行ったもので、1、2年生による出し物を省略し、
① 学校行事等で受賞したトロフィーの返還 ②各種功労者等の表彰 ③生徒会による思い出の写真のスライド上映 ④応援団のエールと1、2年生による校歌斉唱 ⑤教育委員会と生徒会からの記念品の贈呈、が主な内容です。

本年度の各種功労賞受賞者は、右に記載した通りです。体育文化功労賞以外は、すべて3年生です。本年度は、職員トイレとその周辺を献身的に掃除をした6名の生徒が、生徒会功労賞を受賞しています。また、例年になく大勢の生徒が皆勤賞、精勤賞を受賞したことも、この学年の特徴です。本人が心身の健康に十分注意して学校生活を送ったことはもちろんですが、ご家庭のご支援とご協力があったればこそその栄誉だと考えております。

さて、私は会の冒頭で受賞者に向けて、「この受賞を機会に『おかげさま』の気持ちを噛みしめよう」というメッセージを送りました。

たとえば、高校に合格した時に「おめでとう」と親戚や近所の人に言われたら、お父さんやお母さんは「おかげさまで、合格することができました。」とお礼を言うと思います。直接お世話になった人に感謝するのは当たり前のことですが、直接お世話になった人以外にも、心配し、心遣いをし、つながり支えてくれている人がいるはず。誰かははっきりわからないけれども、直接お世話になった人の背後に、そういう人の「かげ」を感じ取り、「おかげさま」と感謝をする日本人の感覚、感性を私は誇りに思います。最も美しい日本語の一つである「おかげさま」の心を、この機会に伝えたいと思ったのです。もちろん受賞者だけでなく、全校生に伝えたいと思って話したことは言うまでもありません。

会が終わった後も、私のメッセージが、一人一人の生徒の心に届いたかなと気になっています。ご家庭での後押しがあればうれしく思います。

■生徒会功労賞■ 36名

鈴木 裕哉	須藤恵梨香	関根 修斗
関根 奈央	瀬谷 周平	早坂 秀斗
松本 蓮	三浦 陽	有我 和希
味戸 桐	薄井 桃香	大岩 青空
小林 叶実	齋藤 大飛	先崎 滯
佐久間雄也	根本 啓貴	松谷 滉人
山本 風花	有我 駿佑	有馬 千尋
遠藤 綾乃	大場 愛央	大和田龍生
嘉齋 真妃	小松 紀香	塩田 湧己
天生目 瞬	羽子田 栞	藤田 歩菜
阿部 成実	安藤 充志	久保木佳奈
西間木 舞	橋本 功弥	若杉 茜里

■体育文化功労賞■ 16名

柳原 海羽	関根 修斗	鈴木 啓祐
早坂 秀斗	佐久間雄也	先崎 滯
薄井 桃香	安藤 充志	佐久間幸輝
(以上3年)	齊藤 好花	村越 愛希
天倉 朋貴	松井 愛希	阿部 萌花
佐藤 仁美	(以上2年) 須藤	雄哉 (1年)

■皆勤賞■ 25名

小曾根仁美	鈴木 啓佑	須藤恵梨香
関根 修斗	関根 奈央	瀬谷 周平
新田 宏起	森田 萌々	薄井 桃香
佐久間雄也	首藤 千佳	山本 風花
有我 駿祐	遠藤 綾加	小野塚勇登
小松 紀香	笹原 大樹	鈴木 拓也
溝井 琳	有我 捷	安藤 充志
込山 高載	佐藤 光	松谷 一樹
山田 晶隆		

■精勤賞■ 10名

安藤 竜一	鈴木 裕哉	味戸 桐
五十嵐瑞希	齋藤 大飛	鈴木 愛美
天生目 瞬	大和田龍生	嘉齋 真妃
赤司 真央		

小中一貫教育進ちょく状況7

「学校を縁に地域をつなぐ」

- 1 目指す児童生徒像、経営方針等の共有
 - 学校評議員への諮問
 - PTA役員への情報提供と意見聴取
 - 「花王スクール応援団」との連携協力
- 2 子どもを見守り、育む体制づくり
 - 須三小子供を守る会、明るいまちづくりの会との連携
 - 家庭相談員、主任児童員など、関係機関との連携
- 3 教育活動への参加、ボランティア協力
 - 本物との出会いにつながる地域人材、事業所等の紹介
 - 得意分野のある方の学校支援

施策5は、保護者・地域社会との連携です。これまでは小学校と中学校それぞれが、保護者や地域社会との関係づくりを進めてきましたが、今後は、小学校と中学校が一体となって関係づくりに努めてまいりたいと思います。その象徴的存在が「花王スクール応援団」です。この組織は、文字通り須賀川三小・三中の校務運営や教育活動を応援してくださるもので、PTA会長経験者が発起人となって結成されました。また、学校評議員さんやPTA役員さんが小・中合同で活動する方向も検討されています。

施策の柱の1点目は、これらの学校関係者の意見

を目指す児童生徒像や経営方針等に反映させることです。教育活動の成果と課題も説明しながら、地域とともに児童生徒の育成にあたっていきたいと考えています。2点目は、既存の団体や関係機関との連携により子どもの健全育成・防犯体制の充実を図ることです。3点目は、地域の方々による教育活動への参加、またはボランティア協力です。現在も職場体験で地域の事業所にはお世話になっていますが、教員以外の専門家・得意分野のある方の関わりによって子どもたちは視野を広げ、社会とのつながりの中で自分の生き方やあり方を考えてくれるものと考えます。可能な限り「本物との出会い」を経験させたいと思います。

このようにして、保護者や地域の方々に学校とつながっていただき、それが縁となって地域コミュニティづくりにも役立てる学校を目指してまいります。

現在、2つのお願いをしています。一つは松明あかしの箍（たが）の製作をお願いできる人、もう一つは学校で菊づくりをやっていただける人です。若い人でももちろん結構なのですが、若い者にはまだまだ負けないというお年寄りのパワーに期待しています。

今回で「小中一貫教育進ちょく状況」は終了です。ここに述べた考え方を基に次年度の学校運営及び教育活動を進めてまいります。ご理解とご支援のほど、よろしくお願いします。

防災教育講話「震災を忘れない」

5年前の東日本大震災は、中学校の卒業式の日が発生しました。その時、今の生徒は、それぞれ進級を間近にした小学4年、3年、2年生でした。本年度の卒業式も「3.11」3月11日に行われるため、繰り上げて、左記の「活躍をたたえる会」終了後に、黙祷を捧げ、教頭から被災した学校の写真をスライドで提示しながら防災の講話を行いました。



高校受験のための面接指導の中で、何人かの生徒に「震災の時にどのようなことを考えましたか？」と質問してみました。当時、災害FMラジオから小学生の作文が流れてきました。小学生なりに家族との絆を深く考えたり、社会に貢献しようと決意したり、その言葉を耳にして、私は震えるほどの感動を覚え、「震災の記憶とともに、この純粋な子どもたちの思いも決して風化させたくない。」と思ったのでした。両親ともに公務員で、役所に泊りがけで被災者の支援に奔走する両親を見て、公務員を目指していると答えてくれた生徒、災害にあった人の救助に力を尽くすために消防士になりたいと答えた生徒もいました。これも目頭を熱くして聞きました。

皆さんのお子さんは、あの時どのような考えをもったのでしょうか。その時の思いを風化させないために、当時の作文があれば保存しておいてほしいと思います。